

# 2023年度 事業報告

## 活動総括

2023年度のKFCの取り組みは、日本で暮らす外国ルーツの子どもから高齢者までへの日々の教育、文化、福祉事業などの取り組みに加えて、世界各地での戦争や迫害を逃れて神戸に来た人々への人道支援、海外で起きている人道危機に対しての支援にも多くの力を注いだ1年となりました。

まず2019年度から続けてきたミャンマー第三国定住難民受け入れ支援は、政府による当初予定の5年間の支援プログラム終了を受け、KFCの取り組みも一つの区切りを迎えることになりました。マレーシアで暮らしていたミャンマー難民の第9陣の受け入れが神戸市に決まってからの生活支援、日本語支援、子どもの教育支援に多くの人たちの協力を受けて続けてきた事業の多くが区切りを迎えますが、5家庭の中で神戸に残った2家庭には、KFCの通常の支援の枠組みでこれからも関わりを持つ予定です。

2022年から始めたウクライナ避難民支援は、母国の戦争の長期化に伴いウクライナの人々にとって必要なことも変化してきました。その中で支援される立場だけでなく自分たちも主体的に社会にかかわりたいという希望を受けて、言葉や歴史、手芸、料理などを伝える「相互理解講座」をウクライナ避難民の人たちの主体性を活かし企画、実施しました。どの講座も盛況で支えられる側、伝えられる側だけではなく伝える側、支える側に立つことが人にとって必要なことだということを実感しました。また今後少くない期間の在住、もしくは定住、永住も視野に入れた生活を構築する為に就労や資格取得、進学といった課題に対する取り組みが求められてきました。一朝一夕で進められることではないですが、寄り添い、伴走しながらの支援によって成功事例も出てきました。成功事例を活かしながら今後の就労の拡大と定着を実現したいと思えます。

新たな取り組みとしては、パレスチナ・ガザ地区へのイスラエル軍による苛烈な報復攻撃によって多くの無辜の子どもが犠牲になっている惨状に対してKFCとしてできることがないかと模索し「パレスチナ・ガザの子ども支援活動」をはじめました。まずは募金を集め現地で子ども支援に取り組んでいる日本国際ボランティアセンター（JVC）とパレスチナ子どものキャンペーンに寄付をしました。また神戸大学有志や多くの方々と協力してガザで暮らす人々の日常、子どもの状況を知るため、長年パレスチナ・ガザでの取材をしてきたジャーナリスト古居みずえさんのドキュメンタリー映画上映会を神戸大学とふたば国際プラザで行いました。大国や強者のご都合主義な論理によって力なき集団に属する人たちが虐げられる構造に対してKFCとしてできることを続けたいと思えます。

近年顕著になっているKFCの課題としては、国籍も民族も歴史背景も多様な人々の支援を、当事者も主体的にかかわる形で事業として進めることの困難さに対して、移民政策もない国で事業を進めるひずみは、コンプライアンス遵守の不備や職員間のハラスメントやマイクロアグレッションという形で表出しています。

2023年度も職員によるコンプライアンス違反、就業規則違反が起きました。また事前に予防するためのシステムが機能しないといった状況もありました。気を引き締めて事業運営に努める必要性を痛感した1年でもありました。

KFCの事業は、年々既存の事業においても進化させ時代や地域の状況に応じて新たな取り組みを進めてきましたが、2022年度にKFCが実施した「行政・国際交流協会による『多文化共生』地域サービスに係る実態調査」で明らかにしたように地域の中で最も大きな影響をもつと思われる神戸市や兵庫県が多文化共生施策は、KFCが日々接する外国ルーツ市民に認識されていない、届いていない状況がありました。KFCもこの状況に対して有効な対応が十分できていませんでした。2023年度末にこのよう

な状況を変えていく機会をと考え、笹川平和財団の助力を得て神戸国際コミュニティセンター（KICC）との共催で「響き合う『多文化共生』フォーラム」を開催しました。フォーラムでは「自分のことばでつくり、つながる」ことをテーマに多文化共生に携わる行政機関、学校関係者、研究者がワークショップで語る機会もつくり、提言を作成しました。

2023年度は、長い間続いた新型コロナウイルス禍がようやく収束におかい、日常を取り戻すための一歩を踏み出した年となりましたが、KFCでは内外ともに困難や課題に直面することの多い1年でした。

それでも多くの人に支えられながら、外国ルーツを持つ人々を主軸に社会的弱者、虐げられる人々のために多くの取り組みをすすめられたと考えます。

#### 会員、運営体制、会報・メールニュース発行、HP・フェイスブック発信

2023年度会員数は、正会員 35、賛助会員 223 でした。（2024年3月31日現在）

運営体制としては、通常総会を5月20日に開催、理事会を6回開催、また各事業部門管理者ミーティングを月1回開催、必要に応じて連携会議を随時実施しました。

またKFC会員および関係者に向け、隔月KFCニュースを発行しました。

ホームページについてはKFCの事業情報やニュースのバックナンバーを適宜アップし、フェイスブックでもふたば国際プラザと連携した情報発信や、クレジット決済ができる機能について追加し、会員、寄付者獲得に努めました。

メールニュースは、登録者数 600 名弱、年 2 回発信しました。

#### 各プロジェクト報告

##### 日本語プロジェクト

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類になり、いわゆるコロナ感染防止対策で日常生活を制限されることはなくなりました。しかしながら私たちは引き続き感染防止対策をしながら、対面のクラスとオンラインクラスとで日本語学習を進めました。「ふたばまちのぶんかさい」に屋台参加、ボランティアによる企画の遠足等も5月、10月、11月、3月と行うことができました。7月から開始した日曜日の「入門者向けお話し会」では1月に新春スピーチ会を行いました。

第三国定住難民向け日本語教室は、2024年2月に5年間の委託を無事終了しました。日常会話力においては心配ないものの、人生がステップアップできる転職活動や夢を叶えるための進学、運転免許を取るため等の漢字理解力においては、まだ不十分です。子どもはKFCの子ども部門の学習にも参加され学年相当の力がついています。

ウクライナ避難民のための日本語クラスは2年目を終了しました。避難当初は、生活面や精神面が不安定で腰を落ち着けて日本語学習というわけにはいきませんでした。残念ながらまだ祖国に戻るという選択肢はないようで、日本語学習のクラスは盛況、学習のみならず生活情報の交換、生活相談もできる居場所になってきました。

学習はボランティアが担っています。ボランティア同士の交流と研鑽のために勉強会、交流会を4回行いました。

教室の場所はふたば国際プラザです。2023年度の計画通りふたば国際プラザの事業との連携も広がりました。日本語教室での「生活ガイダンス」の実施、日本語学習者の「お話し会」や「多文化広め隊」等への参加、ボランティアの「お正月遊び」や「ええとこながた」等への参加、反対に「English Time」や「お話し会」参加者からの日本語学習申込みもありました。ふたば国際プラザの趣旨を実現できています。

## I. 日本語学習支援

	レベル	内容	場所
水曜午前グループ 水 10:15~12:15	入門~上級	「生活日本語」 「入門・初級クラス」	ふたば国際プラザ
木曜午前クラス 木 10:15~12:15	入門~中級	「生活日本語」 「入門・初級クラス」	ふたば国際プラザ ハイブリット
しんさくら 土 10:00~12:00 ※上記以外も希望 時間に対応	初級~中級	「生活日本語」	ふたば国際プラザ
夜グループ 水・木 17:45~19:45	入門~上級	「生活日本語」	ふたば国際プラザ ハイブリット
日曜グループ 日 10:15~16:00	入門~上級	「生活日本語」	ふたば国際プラザ
ウクライナ避難民 クラス 水・木 13:00~15:00 ※上記以外も希望 時間に対応	入門~中級	「生活日本語」 「入門・初級クラス」	ふたば国際プラザ ハイブリット

## 2023年度 日本語学習者の国籍と参加人数

国籍（参加人数）	1名の場合は国籍のみ表示
ウクライナ（14名）、ベトナム（16名）、中国（16名）、ミャンマー（6名）、ネパール（12名）、ロシア（4名）、インド（3名）、インドネシア（3名）、タイ（2名）、フィリピン（2名）、アフガニスタン（2名）、ペルー、カナダ、ベルギー、ブルガリア、ハンガリー、ナイジェリア、ニュージーランド、イラン	

## II. 支援者養成、スキルアップ

### ○日本語ボランティア研修会

	日時	内容・講師	参加者
KFC 日本語ボランティア ミーティング	4月16日（日） 13:30~15:30	1. 2023年度のプロジェクトについて 2. 交流会	12名
KFC 日本語ボランティア 勉強会	6月11日（日） 13:00~15:00	1. ミニ勉強会「在留資格について」 2. 交流会	11名
KFC 日本語ボランティア 勉強会	8月6日（日） 13:00~15:00	1. 昨年度から日本語ボランティアを 始められた方の発表 2. 交流会	13名
日本語ボランティア 新春会	1月7日（日） 12:30~13:30	1. 2023年度の報告 2. 交流会	10名

### Ⅲ. 交流行事など

- ・5月13日(土) 須磨離宮公園遠足…参加者15名
- ・6月1日(木) 中国餃子を作る料理会…参加者9名
- ・6月28日(水) 調理道具・調味料体験学習会…参加者19名
- ・7月1日、29日(土) 絵画教室…参加者10名、10名
- ・8月20日、10月1日(日) 料理交流会…参加者24名、25名
- ・10月28日(土) 淡路島「ニジゲンノモリ」遠足…参加者3名
- ・11月11日(土) 湊川隧道ウォーキング…参加者16名
- ・11月27日(日) ふたば学舎 まちの文化祭 屋台参加…参加者21名
- ・12月24日(日) お楽しみ会…参加者16名
- ・1月7日(日) 新年お茶会とお話し会…参加者29名
- ・3月2日(土) 住吉川散歩と酒蔵に行くツアー…参加者23名

### 外国にルーツを持つ子どもの学習支援事業

#### <MOI(新長田教室)>

今年度は、学習の休憩中にお菓子や飲み物の提供をすることを再開しました。またフードパントリーは継続し、お米、お菓子やレトルト食品などを提供しました。

年度後半からは、渡日したばかりの子どもの学習希望が非常に増えました。中学3年生の年齢で12月に来日した中学生は、学年を落とすことができず、高校進学できるか非常に心配でしたが、無事定時制高校に進学しました。母国で中学を卒業してから来日し、11月から学習を始めたインド人生徒も定時制高校に入学しました。

夏休みには日本語の会話力をつけたいという小学校高学年から中学生までを対象に「日本語会話クラス」を実施しました。日本語を学習して、お昼ご飯を一緒に作って食べて、また少し学習するという流れで取り組み、子どもたちが話したい、と思う気持ちを大事にした授業に取り組みました。

2023年度に通ってきた子どもの内訳は次ページの表の通りです。中学3年生1名とダイレクトの生徒2名が高校進学(定時制高校2名)することができました。

今年度も支援者として、KFCで学習した経験のあるベトナムルーツ3名、インドネシアルーツ1名などの大学生が関わってくれ、同じような背景をもつロールモデルの存在はその下の世代にとってとても心強い存在となりました。それ以外に中国人・ベトナム人留学生や中国人の社会人の方などのご協力も得ることができました。

またこれまでと変わらず、財政的にはまだまだ厳しく、時期によっては支援者の確保も難しい状況です。

神戸大学、甲南女子大学、関西国際大学、関西学院大学、神戸学院大学などの学生の受入れも行いました。また神戸高校、長田高校、兵庫高校などの高校生も自主的に参加してくれました。

また土曜日には親子日本語教室の開催に本格的に取り組み、5組の親子が学習に来るようになっていました。

#### <はいず(三ノ宮分室)>

賀川記念館の要請で、「はいず」を開設ということで、KFCからコーディネーターを派遣されてから、早11年が経ちました。最初に始めた就学前の子どもの対象としたプレスクールから来ている人が今高校2年生です。

最初は子ども二人と保護者の学習支援から始まりましたが、新しく日本に来た中国人の子どもたちが増え始めました。またイスラムの仲間からの紹介で来た人たちもいました。ボランティアは日本語教師の養成学校の方もいましたが、日本語学校から止められたということですぐに辞められ、友人や大学からのアクセスなどで増えてきました。神戸大学中国人留学生の方が来てくださり、次々紹介していただ

いたのもありがたかったです。

当初は金曜 4時から5時半でしたが、必要に迫られ、学習支援や日本語支援が必要になり、今は火曜も4時から5時半に開き、高校入試対策もあり、特別に土曜にも学習を始めました。また、保護者も、中国人、ベトナム人、インドネシア人の5人の学習も時間を変えてやっています。

3月に入って、中国からの子どもが2人来ています。コロナ前は母国の学校を終えて6月、7月に来る、というケースが多かったのですが、昨年あたりから、2月頃に来日して、4月からの新学期に備えるというケースが増えてきました。日本の学校の様子を把握された保護者も多いのでしょうか。賀川記念館周辺の地域の特徴なのか、中国にルーツのある子どもたちが多いです。もちろん、はいずを体験した保護者の紹介も多く、アフガニスタンやパキスタンルーツの子どもたちもやってきています。

会場を使用できる時間は午後6時が限界ということもあり、小学校卒業ではいずは卒業としてきましたが、部活動を調整してもやってくるという学習面や様々な面で支援が必要な中学生が5年前から出てきました。日本語支援と教科学習支援が必要という高校生も2人来ています。また周辺にはJSLが学校にあり、日本語支援は学校でできるというケースも多いのですが、週2日1対1で日本語学習や教科学習の支援をする方が確実に伸びていきます。また、ここで、母語で話し合ったり、カルタやコマ、折り紙などで遊んだりする時間が楽しいと来ている子どもたちもいます。夏休みには、学校の宿題教室や、工作教室もやり、ボランティアの折り紙教師の方から折り紙教室もしていただきました。3月には、24人になりました。もちろん今年も3月で小学6年生中学3年生卒業という子どもたちもいます。また、日本語に早くなれ、学習面でも伸びてきたという子どもたちは、はいずを2年から4年くらいで卒業するというのも多いです。ボランティアは、最初はKFCからの紹介が多かったです。KFCに来る大学のゼミや授業の紹介で来て、長く続けてくださる方もあります。高校生もKFCの理事の先生の紹介が続いています。ボランティアからの紹介も増え、学生もボランティアサークルに声をかけて下さる方もあります。賀川記念館でも、大学にボランティアの依頼に行ったり、ホームページに募集をかけていたりすると、訪ねてくださる方もあり、今年に入って一気に増えほっとしています。日本語学習だけでなく、教科の学習でも、やはり1対1で支援していただけるのが安心です。

4月から、はいずはKFCとの共催事業ではなく、賀川記念館の事業として運営されることになりました。これからも、子どもや保護者の日本語支援や教科学習支援、居場所として子どもたちをサポートする場として続いて欲しいと願っています。

## I.日本語・教科学習支援活動

### 「MOI」(新長田教室)

小学生 水・木 16:00~18:30 土 10:30~12:00 中学生 水・木 18:00~20:30

### 「はいず」(三ノ宮教室)

小学生 火・金 16:00~17:30

所属別	MOI	はいず
就学前	4	0
小学校	26	21
中学校	15	6
不就学・ダイレクト	1	0
高校生	1	2
(保護者)	(4)	(6)
合計	47+ (4)	29+ (6)

※プレスクールは除く

( ) 内は保護者

ルーツ別	MOI	はいず	プレスクール (Moi)	プレスクール (保育園)	合計
ベトナム	13	0+ (2)	2	1	16+ (2)
中国	20+ (1)	23+ (2)	3	0	46+ (3)
ロヒンギャ	3	0	0	0	3
ミャンマー	1	0	1	0	2
フィリピン	1	1	0	0	2
タイ	1+ (2)	0	1	0	2+ (2)
タジキスタン	2+ (1)	0	0	0	2+ (1)
ロシア	2	0	0	0	2
ペルー	0	0	0	0	0
インドネシア	0	1+ (1)	1	0	2+ (1)
インド	1	1	0	0	2
ネパール	1	0	0	0	1
アフガニスタン	0	3+ (1)	0	0	3+ (1)
パキスタン	0	0	0	0	0
ウクライナ	1+ (1)	0	1	0	2+ (1)
韓国	0	0	1	1	2
南アフリカ	0	0	1+ (1)	0	1+ (1)
アルジェリア	1	0	1	0	2
日本	0	0	0	2	2
合計	47+ (5)	29+ (6)	13+ (1)	4	93+ (12)

## II. 外国にルーツを持つ小学校入学前の子どものプレスクール事業

今年度も保育園内でのプレスクールを、9月末に語彙チェックを行い、11月から実施しました。今年度、保育園には、外国にツールをもつ子どもが少ないとのことでしたので、日本人の子どもで課題を抱える子どもも対象としました。参加人数は多くなかったものの、課題を抱える子どもが多かったため、いつもより進度を落として進める必要がありました。

1月からはMOIでのプレスクールも開催しました。最終的に登録は13人といつも以上に人数が多かったですが、継続して通ってきたのは半数強でした。ルーツは様々で、在日年数も違い、保育園にも通っていないなど、非常に多様な参加児童でした。

両方のクラスとも、最初に比べるとみな力をつけていましたが、今年度も小学校入学後に課題を抱えそうな子どもが見受けられました。

実施日：2023年10月～2024年3月までの火曜日 13:30～15:00 開催(全12回)

実施体制：講師1名、スタッフ1名

会場：神視保育園

参加者：4名(ベトナム1名、韓国1名、日本2名)

実施日：2024年1月7日(土)～3月25日(土)までの土曜日開催(全12回)

実施体制：講師1名、ボランティア3名、スタッフ1名

会場：こうべプレスクール(MOI)

参加者：13名

(中国3名、ベトナム2名、韓国1名、ウクライナ1名、インドネシア1名、タイ1名、ミャンマー1名、インドネシア1名、南アフリカ・アルジェリア1名、南アフリカ1名)

### Ⅲ. イベント、研修会等

- ・7月27日(木) 高校進学ガイダンス&先輩から話を聞こう～ベトナム、インドネシアルーツの先輩から～ 参加者：小学生3名、中学生8名、保護者2名
- ・12月27日(水) 年末お楽しみ会 参加者：子ども20名、ほか支援者など10名
- ・3月21日(木) 外国にルーツを持つ先輩から話を聞こう～ブラジル編～

### V. 学生、学校などの受け入れ

- ・6月～1月 甲南女子大学野崎ゼミの行動演習プログラム 9名
- ・通年 神戸大学国内プログラム 2名
- ・8月1日(土) 小林聖心女子学院SOFIS学生受け入れ
- ・8月 神戸学院大学サマーボランティア受け入れ 5名
- ・2月13日～2月26日 神戸学院大学スプリングボランティア受け入れ 4名
- ・2月～4月 関西学院大学インターン生受け入れ 1名
- ・3月～4月 関西国際大学学生受け入れ 8名

### 在日外国人児童読書の会

4月に新型コロナウイルス国が5類に移行したことで、読書の会が本来の形に戻りました。ベトナム語の読書、子どもたちによる紙芝居、図書館のスタッフによる読み聞かせ、日本とベトナムの遊びという流れです。年に6回に減らされたので、子どもたちが待ち遠しいようです。

長年続けている活動で、少人数でもありますが続きます。

グローバル出張読書の会				
期間	場所	時間	スタッフ	参加数
2023年5月23日(火)	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	4	9
2023年6月14日(火)	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	5	10
2023年9月12日(火)	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	4	7
2023年10月24日(火)	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	4	8
2023年11月14日(火)	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	4	13
2024年2月16日(火)	駒ヶ林小学校	14:50～15:30	5	11

### ふたば国際プラザ

今年度は、新型コロナウイルス感染症の第五類への移行に伴って状況が変化する中で、ふたば国際プラザでは来館者数が増加しました。これは、KICCやふたば学舎、地域団体の協力があつたからこそ実現したものであり、各事業の参加者数も昨年度に比べて増加し、今年度の年間の来館者数が1万人を超えました。

ふたば国際プラザの運営をはじめてから5年目になり、地域社会における認知度が一層高まり、ボランティア希望者からの問い合わせも増加しています。また、ウクライナ避難民支援活動も継続しており、物資の受け入れや相談窓口の役割を果たしています。委託事業と自主事業の両方を通じて、生活に必要な情報提供や日本語学習、その他の語学学習、相互理解を促す学習機会や交流機会を提供し、来館者の「ニーズの実現」と「多様性の尊重、相互理解」に向けた取り組みをさらに拡大してまいりました。

事業実施にあたり、関係者との協力と連携が不可欠であり、KICC との定期的なミーティングやふたば学舎との共同事業実施により、相乗効果を生み出しました。外国人来館者も含め、積極的な情報発信と地域の多様性を活かした発展に向けて、さらなる努力を重ねてまいります。

広報活動においては、ホームページや SNS を積極的に活用し、さまざまな手段で情報発信を行いました。また、地域の広報媒体やメールニュースなども活用し、幅広い層にアプローチを広げました。これからも、地域の「多文化共生」の拠点としての役割を果たし、さらなる発展を目指していきます。

## I 在住外国人支援

### 外国人住民生活ガイダンス事業

開催日時	内容	講師（職業等）	料金	受講人数(名)
6月21日	日本の調味料	奥優伽子(ふたば国際プラザ)	無料	14 (中国、ネパール、ウクライナなど)
6月24日	日本の調味料	李乗漢(ふたば国際プラザ)	無料	10 (ロシア、ベトナム、中国、ウクライナなど)
8月23日	日本の運転免許	永良(ふたば国際プラザ)	無料	4 (ウクライナ、中国など)
12月6日	日本の運転免許	永良(ふたば国際プラザ)	無料	7 (ミャンマー、タイ、ロシア、タジキスタン、ベトナムなど)
12月13日	税金のはなし	神戸市行財政局税務部税制企画課	無料	33 (中国、ベトナム、ネパール、ウクライナ、ミャンマーなど)
1月24日	日本の運転免許	永良(ふたば国際プラザ)	無料	1 (中国)
1月17日	在留資格について(ウクライナ避難民向け)	出入国在留管理庁大阪出入在留管理局神戸支局	無料	38 (ウクライナ、日本人関係者など)
3月24日	市営住宅	永良(ふたば国際プラザ)	無料	10 (中国、ミャンマー)
合計				117 (前年度比：+33)



II 日本人と外国人の交流・相互理解事業

交流・相互理解事業

開催日時	内容	講師（職業等）	受講料金	受講人数(名)
5月27日	新長田フィールドワーク	金宣吉(KFC理事長)ほか	無料	16
8月13日	多文化おばけやしき～世界のゆうれいとであえるよ～	山本則子(ふたば国際プラザ)ほか 地域ボランティア、多文化交流員	無料	350
10月13日、14日	世界の遊び広場	李乗漢(ふたば国際プラザ)ほか 地域ボランティア、多文化交流員	無料	2,100
11月25日	相互理解講座～ウクライナ語の歴史と挨拶～	ウクライナ人講師1名、通訳者1名ほか	無料	15
1月7日	お正月あそび	永良(ふたば国際プラザ)ほか 地域ボランティア、留学生ボランティア	無料	27
2月18日	ええとこながた～多文化をたのしもう～	永良(ふたば国際プラザ)ほか 留学生ボランティア、地域ボランティア	無料	62
合計				2,570 (前年度比： -44)

交流スペース(日本語学習スペース、会議スペース)の提供(登録活動数：累計のべ35件)\*前年度比+5

月	利用内容	利用活動数	利用回数
4月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ子ども学習教室	8	25
5月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、語学交流会、ウクライナ避難民日本語教室、スタディーサークルで学びを共にする会、ランタン実行委員会	11	34
6月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ避難民日本語教室、日曜日本語勉強会	9	35
7月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ避難民日本語教室、夏休み子ども学習支援、ランタン実行委員会、スタディーサークルで学びを共にする会、ウクライナ文化交流会、日曜日本語勉強会、はじめての日本語会話会、絵画教室	15	48

8月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ避難民日本語教室、夏休み子ども学習支援、はじめての日本語会話会、書道体験会、ランタン実行委員会、多文化を考える会	13	40
9月	ウクライナ避難民日本語教室、外国にルーツをもつ子ども対象の英会話教室、英語交流会、中国語交流会、日本語交流会、はじめての日本語会話、みんなの日本語、モンゴル語母語教室、外国にルーツを持つ人々のパソコン教室、ベトナム語学習、ウクライナ文化交流会、スタディーサークルを共にする勉強会、絵画教室	13	48
10月	ウクライナ避難民日本語教室、外国にルーツをもつ子ども対象の英会話教室、英語交流会、中国語交流会、日本語交流会、はじめての日本語会話、みんなの日本語、モンゴル語母語教室、外国にルーツを持つ人々のパソコン教室、ベトナム語学習、絵画教室	11	43
11月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ避難民日本語教室、外国にルーツを持つ人々のパソコン教室、みんなの日本語、日曜会話クラス、スタディーサークル、ビジョン0B会、兵庫県立大学	14	49
12月	外国にルーツをもつ子ども英会話、英語交流会、中国語交流会、韓国語交流会、日本語交流会、ベトナム語学習、モンゴル語母語教室、ウクライナ避難民日本語教室、外国にルーツを持つ人々のパソコン教室、みんなの日本語、日曜会話クラス	11	53
1月	ウクライナ避難民日本語教室、外国にルーツをもつ子ども対象の英会話教室、英語交流会、中国語交流会、日本語交流会、はじめての日本語会話、みんなの日本語、モンゴル語母語教室、外国にルーツを持つ人々のパソコン教室、ベトナム語学習、ウクライナ文化交流会、HYOGO Myanmar Community、KFC ハラスメント研修会	13	41
2月	ウクライナ避難民日本語教室、外国にルーツをもつ子ども対象の英会話教室、英語交流会、中国語交流会、日本語交流会、はじめての日本語会話、みんなの日本語、モンゴル語母語教室、外国にルーツを持つ人々のパソコン教室、ベトナム語学習、ウクライナ文化交流会、KICC 奨学生会、ビジョン0B会	13	52
3月	ウクライナ避難民日本語教室、外国にルーツをもつ子ども対象の英会話教室、英語交流会、中国語交流会、日本語交流会、はじめての日本語会話、みんなの日本語、日曜会話クラス、モンゴル語母語教室、外国にルーツを持つ人々のパソコン教室、ベトナム語学習、HYOGO Myanmar Community、Helping Hands Kobe、ボーイスカウト第8団	14	54
	合計	145 (前年度比：+43)	522 (前年度比：+80)

ヒューマン・シネマ上映会

開催日時	内容	開始時間	講師 (職業等)	受講 料金	受講 人数(名)
8月12日	『WHOLE』(ホール) 2019 日本	13:30~	金宣吉 (KFC 理事長)	無料	34
	『WHOLE』(ホール) 2019 日本	15:30~			15
9月30日	『マイスモールランド』 2022 日本	15:30~			25
	『マイスモールランド』 2022 日本	18:00~			8
12月9日	『ぼくたちは見た』 2011 日本	14:00~			28
	『ガーダ パレスチナの詩』 2007 日本	17:00~			11
2月6日	『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・チャイナ 天地黎明』 1991 香港	15:00~			1
2月20日	『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・チャイナII 天地大乱』 1992 香港	15:00~			5
2月27日	『初恋のきた道』 2000 年中国	15:30~			4
3月23日	『東京クルド』 2022 日本	10:30~			5
	『東京クルド』 2022 日本	13:30~			5
	『東京クルド』 2022 日本	15:30~			4
合計					145 (前年比: +52)

Ⅲ その他人材育成事業

○共生社会に向けたボランティア養成講座 全8回

開催日時	内容	講師(職業等)	受講料金 (円)	受講人数(名)
9月3日	共生社会とは①?	山本晃輔 (関西国際大学准教授)	3,000	6
9月10日	ボランティアの心構え/傾聴、 共感の姿勢を養う	長谷部治 (神戸市社会福祉協議会)		9
9月17日	マイクロアグレッションを理解 する	金友子 (立命館大学准教授)		5
9月24日	神戸に住む外国人の歴史と現状	金宣吉 (KFC 理事長)		7
10月1日	共生社会の現場の話を聞こう①	櫻木晴日 (KFC スタッフ)		6
10月8日	共生社会の現場の話を聞こう②	櫻木晴日 (KFC スタッフ)		5
10月15日	共生社会とは②?	山本晃輔 (関西国際大学准教授)		5
10月22日	日本社会で生きる ボランティア活動について	フフデルゲル (KFC ケ アマネージャー)		7
合計				50 (前年度比: ▲53)

多文化ひろめ隊♪(在日外国人ゲストティーチャー)養成講座

開催日時	内容	講師（職業等）	受講料金	参加講師数	参加児童館数
5月27日	1. 小学生低学年向けの日本語表現 2. 興味をもってもらうための発表の仕方 3. 前に参加した人からのフィードバック	奥 優伽子 (ふたば国際プラザスタッフ)	無料	32	16
8月5日	1. 子どもに合わせた日本語表現 2. 興味をもってもらうための発表の仕方 3. 前に参加した人からのフィードバック	永良 イ スンハン (ふたば国際プラザスタッフ)		10	5
1月13日	1. 子どもに合わせた日本語表現 2. 興味をもってもらうための発表の仕方 3. 前に参加した人からのフィードバック	永良 (ふたば国際プラザスタッフ)		24	12
合計				66	33
				(前年比：+9)	(前年比：▲1)

IV 留学生等を活用した国際理解教育事業等

開催時期	派遣講師数(名)	出身国・地域数	派遣児童館数
6月	32	9	16
11月	10	9	5
2月・3月	26	8	13

<派遣講師出身国・地域>

ウクライナ、内モンゴル、韓国、シリア、台湾、中国、ネパール、フィリピン、ベトナム、ポルトガル、ミャンマー、メキシコ、ロシア

## V 地域他団体との連携

KOBE ランタン縁日 2023

○実施日：10月13日(金)、14日(土)16:30-20:00

\*大正筋商店街のランタン点灯は10月6日(金)～10月14日(土)

○会場：ふたば学舎、ふたば国際プラザ、大正筋商店街(K I C C、WACCA、コミュニティハウスを含む)、  
新長田大橋地下道、神戸生活創造センター

○来場者数：2,100名(ふたば学舎の親子縁日の来場者数)

外国人住民、子どもたちや地域の住民たちが手掛けたおよそ1000個のオリジナルランタンを、新長田の町中に飾りました。ふたば学舎の親子縁日では、スーパーボールすくいや割りばし鉄砲、世界の遊び、千本引きなど、ふたば学舎のノウハウやネットワークを活かして、多くの協力を得て子どもたちが楽しめるゲームを多数用意しました。ステージ企画では、チンドンの演奏やマジック、さらにモンゴル語の母語教室の子どもたちによる演奏なども行いました。KICCでは、他の団体による多文化イベントが企画され、会場マップとスタンプラリーを用意し、来場を促進しました。

今年度も飲食屋台に取り組み、地域の店舗や団体、個人の協力を得て、韓国、ベトナム、モンゴル、ブラジル、ウクライナ、インドなど多数の国や地域の料理や日本のわたがしの屋台などをふたば学舎前とKICC前で展開しました。KICC入口前では、ウクライナのピロシキの販売も行われ、ウクライナ避難民支援で通訳を務めている方々の協力を得て、17名の避難民がピロシキづくりや販売に参加しました。また、今回も関西国際大学、神戸市外国語大学、神戸大学、神戸学院大学、日本経済大学、流通科学大学の学生や社会人計約60名がボランティアとして手伝いました。

### K F C帰国者新長田交流会

今年はコロナの状況がまだ続いているが、国の政策によりコロナに関しては制限がなくなりました。コロナ後の状況においても、過去の経験を踏まえて、引き続き安全に活動できるように努めました。コロナ禍の影響が残る中で、高齢者事業ということも考え、引き続き検温、記名、消毒、距離などの対策を徹底し、通常通りの活動を行うための工夫を重ねました。自粛生活から解放されましたが、生活習慣が付いたことで、外出しない、人と関わる機会が少なくなっている現状でした。これを踏まえて、安全を期して交流会を運営し続けることで、「居場所」「健康維持」「社会参加」の役割を果たすことができるよう取り組んで進めました。感染状況が落ち着いた時期には遠方からでも一世の方々も徐々に足を運んで下さり、再会を喜び合う姿が印象的でした。体調面では帰国者の方々にとっては厳しい一年であり、高齢化やコロナに罹患され、寒さで持病が悪化した、病気になって手術をしたなどいろいろなお話を伺いました。また、高齢により亡くなった方もいました。その中でも交流会を可能な限り通常通り運営することで、いつでも顔を出せる居場所として運営してきました。

帰国者同士のネットワークが希薄になり、お互いにどのように過ごしているかを気にしつつも会える機会が少なく、帰国者同士が共に活動することによって得られる安心感が得られにくい状況がまだ続いています。今後も日本語学習の内容から交流会の内容、運営の仕方まで参加者の方々の意見を聞いて「居場所」、「健康維持」、「社会参加」の役割が果たせるよう取り組んでいきます。これからのコロナ後の状況においても、過去の経験を活かし、参加者の方々の意見を聞きながら、日本語学習の内容や交流会の内容、運営方法を柔軟に調整していきます。また、地域のニーズや参加者の関心に合わせて、新たな取り組みや活動を積極的に取り入れていきます。

#### 1. 日本語学習

日本語学習では、参加者の皆さんのニーズに合わせて、様々な形式で授業を行ってきました。時には講義形式、時には自由な会話形式、また選択式の会話形式など、柔軟にアプローチしてきました。健康

や介護予防、日本社会の慣習など、幅広いトピックに触れながら、具体的な内容としては、問診票の書き方や医師とのコミュニケーションなど、実践的なスキルから、今年の漢字や社会の話題なども扱ってきました。

参加者の中には高齢者が増えており、学習内容の定着のために繰り返し復習することが重要となっています。そのため、文章を何度も音読したり、同じ語彙を繰り返し学習したりして、理解を深める取り組みを行ってきました。ボランティアの方々からの支援も受けながら、効果的な学習方法について試行錯誤を重ねました。また、防災に関する内容では、実際の防災グッズを見せるなど、視覚的な要素を取り入れて学習を促進しました。

コロナの影響が顕著だった時期には、オンラインでの日本語学習機会を提供しました。火曜日の午前中には、WeChat を活用して、健康や介護、季節の話題などに関する授業を行いました。遠方に住む参加者にとって、家族以外と繋がる貴重な機会となりました。

## II. 交流会

交流活動では歌に合わせて座ったまま手や足を動かして無理なく体操できる「イス体操」を取り入れた一方で太極拳や広場踊り、中国の足腰を鍛える運動「八段錦」といった中国の文化的背景を活かした帰国者交流会ならではの活動も引き続き行いました。コロナ禍に入ってから中国東北部の伝統踊り「ヤンガー」は練習する機会も発表する機会もありませんでしたが、1月に明舞地域で発表する機会があり、そのための練習を交流会で行いました。それをきっかけに久しぶりに交流会に足を運んで下さる方もいらっしゃり、皆で練習して、発表することができました。

また、中国の広場踊りを練習して、ふたば学舎のまちの文化祭のステージプログラムで発表しました。人前で発表できる機会は久しぶりで皆さん緊張されていましたが、終わった後には非常に充実した表情をされていました。

更に今年度新しく始めたこととして、ふたば学舎の裏手の畑を借りて農作物を育てる作業を行いました。二世の方を中心にミニトマトやきゅうり、大根などを育てています。農業の経験のある方々が多く、農作業ができることは生活面で張り合いもでき、運動にもなり生活面のプラスの効果があるようです。

交流会の実施にあたっては、看護科の学生の研修やボランティアの参加を受け入れるなど、多様な人々との交流も意識しました。またウクライナ避難民の支援事業がふたば学舎で行われていることを知り、ウクライナの方々に衣類をご提供頂いたこともありました。

交流活動では、座ったまま手や足を動かして体操できる「イス体操」や中国の文化的背景を活かした太極拳や広場踊り、足腰を鍛える運動「八段錦」などを行いました。また、コロナ禍においても安全に参加できるように注意を払いながら、交流会の実施を継続しました。さらに、ふたば学舎の裏手の畑での農作業や、地域の自治会との連携を通じて地域コミュニティとの交流を深めました。

## III. 広報活動

広報活動についてはふたば国際プラザで切り絵作品や絵付けしたランタンを展示し、また交流会の活動紹介を掲示し、月間約 800 名の一般来館者に発信しました。特に 10 月のランタン縁日(来場者：2,100 名)では帰国者の方々が切り絵を貼り付けたランタンが多くの人目に留まりました。

また、交流会のリーフレットの配布により帰国者をめぐる社会背景、課題について地域の人々に啓蒙しました。そのほか帰国者通信の発行、KFCの会報(KFCニュース)による発信と、有隣通信など外部媒体への投稿を通して広報活動を行いました。

2023年度 KFC 帰国者新長田交流会実施状況

(日本語学習及び交流会)							
開催日	交流会			日本語学習			内容
	参加者数	一世	二世	参加者数	一世	二世	
4/4	10	6	4	10	6	4	日本語教室・交流会
4/18	10	6	4	10	6	4	日本語教室・交流会
4/25	11	6	5	11	6	5	日本語教室・交流会
5/2	11	6	5	11	6	5	日本語教室・交流会
5/16	11	6	5	11	6	5	日本語教室・交流会
5/23	8	4	4	8	4	4	日本語教室・交流会
5/30	10	6	4	10	6	4	日本語教室・交流会
6/6	11	7	4	11	7	4	日本語教室・交流会
6/20	10	7	3	N/A	N/A	N/A	映画交流会
6/27	8	4	4	8	4	4	日本語教室・交流会
7/4	7	4	3	7	4	3	日本語教室・交流会
7/18	5	2	3	N/A	N/A	N/A	映画交流会
7/25	6	3	3	6	3	3	日本語教室・交流会
9/5	11	6	5	11	6	5	日本語教室・交流会
9/19	8	5	3	N/A	N/A	N/A	映画交流会
9/26	11	5	6	11	5	6	日本語教室・交流会
10/3	12	5	7	12	5	7	日本語教室・交流会
10/13	12	4	8	N/A	N/A	N/A	ランタン縁日
10/14	12	4	8	N/A	N/A	N/A	ランタン縁日

10/17	5	3	2	5	3	2	日本語教室・交流会
10/24	6	2	4	6	2	4	日本語教室・交流会
10/31	6	4	2	6	4	2	日本語教室・交流会
11/7	10	6	4	10	6	4	日本語教室・交流会
11/21	8	4	4	8	4	4	日本語教室・交流会
11/26	9	4	5	N/A	N/A	N/A	まちな文化祭
11/28	8	4	4	8	4	4	日本語教室・交流会
12/5	5	3	2	5	3	2	日本語教室・交流会
12/19	12	7	5	12	7	5	日本語教室・交流会
12/26	10	7	3	10	7	3	日本語教室・交流会
1/16	11	6	5	11	6	5	日本語教室・交流会
1/23	12	6	6	12	6	6	日本語教室・交流会
1/30	9	6	3	9	6	3	日本語教室・交流会
2/6	11	6	5	11	6	5	日本語教室・交流会
2/20	11	6	5	11	6	5	日本語教室・交流会
2/27	10	5	5	10	5	5	日本語教室・交流会
3/5	11	6	5	11	6	5	日本語教室・交流会
3/19	10	4	6	N/A	N/A	N/A	映画交流会
合計	347	185	162	281	155	126	

#### KFC 帰国者明舞交流会実施状況

(日本語学習及び交流会) 会場：みなく～る明舞				
開催日	交流会	交流会	交流会	内容



	参加者数	一世	二世	
4/11	8	4	4	日本語学習・交流会
5/09	6	5	1	日本語学習・交流会
6/13	7	3	4	日本語学習・交流会
7/11	9	3	6	日本語学習・交流会
9/12	6	4	2	日本語学習・交流会
10/10	7	3	4	日本語学習・交流会
11/14	6	4	2	日本語学習・交流会
12/12	7	3	4	日本語学習・交流会
1/9	6	4	2	日本語学習・交流会
1/28	16	9	7	明舞地域交流会
2/13	10	6	4	日本語学習・交流会
3/12	10	4	6	日本語学習・交流会
計	98	52	46	

#### IV. 相談事業

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響が減少しましたが、帰国者の皆様は高齢者なので、引き続き感染症対策を徹底的に続けて参りました。また、高齢化が深刻化し、健康管理や医療ニーズが大幅に増加しています。手術や通院、持病管理などに関する相談も増えています。これらに対し、KFC では個別のサポートやケアマネジャーとの連携を強化し、迅速かつ適切な対応を行ってきました。

貴基金の助成により、引き続き定期的に支援者による個別相談、相談対応を行うことができました。今年度は介護の専門のケアマネジャーと連携し、専門性のある迅速な対応を心掛け、また年齢を重ねても人との交流機会を求めておられる声もあり、体調面のフォローを行いながら交流活動へもお誘いして、少しでも社会参加の一助となるように取り組みました。

今後も一世世代も、二世世代でも高齢化の深刻化により、お一人おひとりの状況を細やかにフォローしていくことが必要とされています。引き続き、支援団体・支援者として最善を尽くして参りたいと思います。

#### デイサービスセンターハナの会（通所介護事業）

2023 年度もデイサービスセンターハナの会は、在日コリアン・日本・ベトナム・中国という多様な文化をもつ利用者の民族性に配慮したサポートで居場所作りに取り組んできました。新規利用者は年間を通じて 11 名ほどでした。長い間続いた新型コロナウイルス禍が収束にむかい、以前の日常を取り戻そうとする中で、価値あるサービスをどのように提供するのかについて内容と実践が問われる年でした。

このような中で、利用者が在宅生活を長く送るために、個別機能訓練や手先を使うレクリエーションの充実化を図るために主体的に日々努力してきました。また、認知症の利用者の受け入れについて多く学んだ一年でした。これらの取り組みは、夏祭りや敬老会、クリスマス会、外部との交流などの行事を通じて実践することができました。

昼食提供については、韓国料理とベトナム料理を安定して提供することができ、入浴も安全に提供することができました。コロナ感染対策においても、5 類になった後も感染者が出る中、看護師を中心に方法を探りながら取り組んできました。

一方、在宅での自立生活が困難になり、デイサービス利用を中止せざるを得ない利用者や長期化していた利用控えなどにより、利用率の減少に伴う売上げ減が継続しています。新規受入れについては、外部ケアマネに定期的且つ積極的な広報などの取り組みが必要だったと思います。

こうした中、新しい介護職1名を迎え、スタッフ全体で利用者に寄り添ってサポートしてきました。個別にトラブルになりそうな場面では、適時対応を行い、ケアマネージャーや家族と連携しながら、利用者のサポートのあり方を探っていきました。特に今年度は、30代以降に渡日してきた韓国人女性の支援（日本人や在日コリアン配偶者の他界による孤立と韓国在住の家族との連携）が数件みられました。

また、コロナ感染に伴うスタッフ減員状況が数度にわたり見られましたが、各自が状況に合わせて役割を果たすことができ、乗り越えることができました。また、ヒヤリハットを積み重ねて事故防止に努め、安全で安心できる場づくりに励み、研修会では、外部講師の協力を仰ぎ認知症サポーター養成講座を開催し、ともに学びました。

看護実習生の現場の受け入れプログラムは、コロナ以前と同様の内容で大手前大学と関西国際大学の看護実習を受け入れました。

また、コロナ禍が収束する中で、小規模多機能型居宅介護ハナに1週間に2回、昼食提供を開始したり、合同クリスマス会を開催するなど、法人の施設との業務連携ができたこと、外部からのボランティアやモンゴルの子どもたちとの交流事業をできたことも成果の一つと言えます。

今後、利用者増員のための努力に加え、マイノリティコミュニティ団体や地域ボランティアなどとも協力を深め、利用者が充実した在宅生活を送ることができるように、スタッフ一丸となってサポートしていきたいです。

	要支援延べ数	要介護延べ数	延べ利用者数	一日平均
2023年4月	71	153	224	9.0
2023年5月	80	182	262	9.7
2023年6月	83	183	266	10.2
2023年7月	91	188	279	10.7
2023年8月	69	192	261	9.7
2023年9月	78	181	259	10.0
2023年10月	78	167	245	9.4
2023年11月	76	185	261	10.0
2023年12月	67	170	237	9.5
2024年1月	63	151	214	8.9
2024年2月	63	151	214	8.6
2024年3月	72	152	224	8.6
年間	891	2055	2946	9.5

#### ハナ介護サービス（居宅介護支援事業）

ケアマネジメント実績件数（単位：件）

月	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	合計	支援 0.5 換算
4月	7	20	26	9	1	9	3	75	61.5
5月	7	22	25	7	4	8	3	76	61.5
6月	7	22	26	8	3	7	2	75	60.5
7月	9	23	24	10	3	8	2	79	63.0
8月	9	20	28	8	4	8	3	80	65.5
9月	8	22	28	8	4	8	3	81	66.0
10月	7	23	28	9	4	8	3	82	67.0
11月	7	23	26	8	5	9	3	83	66.0
12月	7	23	27	9	5	9	3	83	68.0
1月	7	23	26	11	5	7	3	82	67.0
2月	7	22	27	11	5	8	3	83	68.5
3月	6	21	25	13	4	8	3	80	66.5

2024年3月時点：担当数： フフケアマネ換算 32.5名 酒井ケアマネ換算 35名

- ・上記表から読み取れるように、2023年度から2023年度は利用者制限に迫る勢いで利用者さんが急増傾向ですが、全体的に少し細やかさに欠けるケアマネジメントに偏りつつあり、一つ一つを丁寧に心がけるよう注力を注いでゆく必要があります。
- ・ケアマネジメントでは、利用者様への支援について継続性が保てるよう必要な対応を講じました。
- ・3月末実績時点利用者様ルーツ別では、コリアン24名、日本人29名、ベトナム人13名、華僑7名、中国残留邦人帰国者など7名、その他2名であり、文化的背景が多様な状況となっています。また、独居39名と家族による支援が限定的で、生活保護受給41名であり、経済的に厳しい利用者様が多い状況です。
- ・2024年度から、予防が2名で要介護1換算から、3名で1換算となり、制限緩和、また、要介護者35名制限が、40名（改定では45名まで）となり枠に余裕ができ、これまで以上の利用者獲得が可能にはなりつつあります。
- ・支援専門員はこの業務に専念専従実施するように社内部門間徹底してゆくように促します。

## コミュニケーションサポート事業

### <概要>

- ・サポーター派遣に伴う利用者（介護保険を利用される方）の費用負担はなく、1人につき、年に4回まで利用することができます。
- ・通訳派遣・サポーター養成だけでなく、言葉や情報の壁の為に制度を利用することができず、必要な日常生活支援が得られないという状況が改善できるよう、今後も本事業の実効的な運用に努めたいと考えています。言葉が通じる者が定期的に訪問することで信頼関係が構築できました。  
→神戸市の枠の中での運用となり、介護保険との併用利用では、年4回の制限では厳しい状況となっています。  
→今年度は初めて神戸市ケアプランチェックを受けました。定例モニタリングについて、月1回自宅訪問時等必要な回数に応じて、コミュニケーションサポーター派遣回数を年間12回に増加してほしいとの要望を介護保険課指導課を訪問して行いました。

### サポーター等の充実

- ・サポーター研修はコロナ明け以降開催できておらず、今年度課題といたします。

### <利用状況>

第1四半期8件、第2四半期6件、第3四半期5件、第4四半期7件 計年間26件

ハナ介護サービス（訪問介護事業）

訪問介護事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	32	33	35	35	30	30	36	36	30	36	40	36

現在の契約者数は44名です。ルーツを分けるとコリアン11名、ベトナム11名、日本14名、華僑4名、中国帰国者関係3名、インド1名です。要支援者が15名で、要介護者25名です。独居は29名です。この一年は要支援者から要介護者になった方も多くなっています。

訪問介護部は職員と登録ヘルパー7名で活動してきました。人手不足で新規の利用者を受けられないためもう1名のフルタイム勤務のスタッフが入ればと募集中です。

ヘルパー会議が未再開のままです。この年度も下記の通り「県知事の呼びかけ・神戸広報誌の多言語（ベトナム語・ポルトガル語・中国語など）を配布しました。

日時	テーマ
2023年4月	高齢者虐待防止について、神戸広報誌4月号（多言語）
2023年5月	心身の健康維持は口腔ケアから始めよう
2023年6月	神戸広報誌5・6号
2023年10月	脳性麻痺の二次障害と老化現象 神戸広報誌7・8・9号
2023年11月	認知所のある人の生きる世界見えている風景を知ろう 神戸広報誌10月号
2023年12月	神戸広報誌11月号
2024年3月	神戸広報誌11月号

福祉有償運送

2023年度に派遣した回数は前年とほぼ変わりません。小規模の事業ですが、引き続き無事故・無違反であるように努めたいと思います。

年月	利用回数	利用者数
2022年4月	11	8
2022年5月	14	6
2022年6月	10	5
2022年7月	8	6
2022年8月	10	5
2022年9月	10	6
2022年10月	15	7
2022年11月	11	10
2022年12月	10	6
2023年1月	11	6
2023年2月	12	6
2023年3月	26	7
計	148回	78人

<はじめに>

今年度は、5月8日から新型コロナウイルスが2類から5類になり、感染対応をしながら、徐々に日常生活を取り戻した1年でした。グループホームの家族面会は、5月8日から、一定の制限を設けましたが、1階の面会室ではなく、各居室にあってもらうようにしました。また、外出・外食も事前申請をしてもらい、再開することにしました。

ハナでは、5月末から8月末にかけて、主に家庭内感染で、職員が数名、新型コロナウイルスに罹患しました。7月に、小規模の利用者2名、職員4名、8月には小規模の利用者2名、職員3名が感染。感染ルートが不明なものもありましたが、クラスターとなり対応に追われました。特に、ロングショート利用者がコロナに罹患した時は、入院が出来ず、施設内で療養しましたが、重症化せずに回復しました。グループホームの利用者に感染が広がらなかったのは救いでした。このクラスターの時期、更衣場所を各フロアではなく、1階のロッカーに戻していましたが、フロアを超えて職員間に感染を広げた可能性があり、現在、職員は各フロアで更衣をしています。その後も、散発的に感染は見られますが、2024年2月末に食事時のパーティションを中止し、2024年3月末に、週2回の新型コロナウイルス抗原検査も終了しました。また、年末を前に外泊も解禁し、正月帰省や、定期的な外泊、本国へ帰国できた利用者もいらっしゃいます。今後も、感染に気を付けながら、元の生活を送れるように努めていきたいと思っています。

職員育成について、感染対応に追われたとはいえ、研修の実施がおろそかになり、資格取得への支援が手薄になるなど、反省するべき点も多かった様に思われます。また、虐待を疑われるような状況や、医療行為の告発など、問題が表面化するまでに時間がかかり、施設を管理するものとして、職員の言葉に耳を傾け、全体をみる視点に欠けていたと思います。特に、医療行為での役職の解任は痛恨の出来事でした。

ただ、その中で、リーダー、サブリーダーやその候補生を中心に、認知症介護実践者研修、認知症介護リーダー研修の受講をすすめ、グループホームでは計画作成担当として、マネジメント業務ができるようにしました。また、実務者研修を受講した職員の介護福祉士合格もあり、正職員は、全員が介護福祉士有資格者となりました。全体で見ても、登録ヘルパーを含め、30名の職員の内、18名が介護福祉士有資格者になっています。

また、KFCでは、外国人職員で、海外の学校を卒業した者が正職員になるには、N3の合格が必須となっております。今年度はかないませんでした。N3にチャレンジし、正職員を目指す職員も出てきています。この芽を次につなげていければと感じた1年でもありました。

<各課題についての成果>

【重点課題】

I、2023年5月8日に、新型コロナウイルス感染症が、2類から5類へ変更になる事を受け、徐々に、元の生活に戻し、途切れている地域とのつながりの回復、家族との面会・外出・外泊など、ご利用者様が安全に、楽しく過ごせるようにします（感染状況により変更の可能性はある）。

→グループホームを中心に、面会、退出、外泊などが順を追って再開し、ご家族様とご利用者様が、久しぶりに、ゆっくりと居室や屋外で過ごせる機会を持つことが出来ました。ご自分の親だけでなく、他のご利用者様とも再会でき、喜ばれていたご家族もおられました。また、中には、100歳を親族で祝う食事会に出かけることができたご利用者様もあり、その方は、現在、すでに他界されていますが、ご本人、ご家族にとって、かけがえのない時間を送れたのではないかと感じます。

地域とのつながりについては、徐々に、地域のイベントが催されるようになってきて、ランタン縁日

には参加させてもらいました。しかし、コロナ前の様な認知症カフェや、喫茶コーナーなどがなかなか再開できずにいたり（担い手不足など）、こぐま園の園児との交流や地域の敬老会の参加などは、ハナで感染者が出るなどの状況があり、参加が出来ませんでした。今後の課題です。

## II、研修など、学習機会の確保と、事例検討会を開催します。

- ・感染対策、災害対策のBCPの作成を行います。

→感染症、災害のBCPを作成し、備蓄の準備は進めましたが、訓練や研修などは次年度に持ち越しです。実際に、どのように訓練をすればよいのか、構成メンバーや、研修・会議の持ち方など課題は山積です。

- ・法人だけでなく、小規模多機能型施設やグループホーム、あんしんすこやかセンター、医療介護サポートセンター、区役所の各部門と連携します。

→小規模多機能施設とは、参集で開催されるようになった連絡会の会議で顔を合わす機会が増え、情報交換や交流ができました。グループホームの方は、専門部会が、コロナ以降休止したままになっている為、現在、他のグループホームがどのように運営されているのか分からないままです。ただ、グループホーム更紗・小規模多機能更紗の運営推進会議に参加するようになり、更紗さんからもハナの運営推進会議に参加してもらっている為、2施設間の交流は出来るようになりました。

あんしんすこやかセンターとは、困難事例や虐待事例での情報共有、専門職を集めての会議の開催などで連携をしました。虐待事例については、現在進行形です。また、専門職を集めて会議を開催したケースは終了しましたが、高齢者と障害者が同居する家族の問題であったため、ハナ、家族、あんしんすこやかセンターだけでなく、行政（保健師、ケースワーカーなど）、病院、障害相談支援センター、障害デイサービスの職員など多職種連携が実現し、ハナにとっても良い経験となりました。

医療介護サポートセンターとの連携の場面はありませんでしたが、区役所の主にケースワーカーとは必要時に相談をし、対応をしました。また、安心サポートセンターにつなぎたいケースがあり、その話もすすめていますが、成年後見制度の活用に関わり、切り替わる可能性もあり、来年度の課題です。

今年度の特徴として、医療通訳の団体 FACIL と連携が出来るようになったことが大きいです。今後も協力をしたいと考えています。

- ・地域の民生委員、保育園、学校などとのつながりを再度構築します。

→民生委員とのつながりの構築、保育園、学校とのつながりの再開は、コロナ感染があり、できませんでした。

## III、職場力を高めます

### 1、情報の共有化ができ、何でも相談しあえる職場作りを目指します

- ・フロアー会議を中心に、リーダー会議、職員会議など、職場でのミーティングの時間を増やし、職員の意見が反映されやすい環境を作ります。

→フロアー会議は、不定期となり、グループホームは隔月、小規模多機能は毎月という頻度が崩れやすかったです。小規模多機能は、毎月の会議が義務付けられていますが、フロアー会議の形をとれないときは、ミーティングの時間を活用するなどしました。ただ、多数の職員が参加できる場を求める声が大きく、不満を残す形となりました。リーダー会議の毎月開催も難しい時期がありましたし、職員会議は開催できていません。

- ・サービス担当者会議を定例化し、事例検討を行えるようにします。

→小規模多機能は、定期的にサービス担当者会議を開催する必要がありますが、会議という形が取れず、担当者から口頭や電話で要点を聞くこともありました。また、グループホームも集まったの担当者会議

が定着しませんでした。

## 2、職員の育成に努めます

・海外ルーツの利用者が増えたが、歴史的背景を知らずに介護を行っている面があります。在日コリアン、中国帰国者、ベトナム難民、華僑など、様々なルーツの高齢者の背景を知るような学習会を行います。

→1月に、まず、帰国者の勉強会を予定しましたが、講師との日程調整がつかずかきませんでした。来年度の課題です。

・職場のある長田区の町や産業を知る学習会の開催と、必要時は地区踏査を行います。

→研修担当に項目として入れてもらいましたが、これも実現できていません。

・直接介助である食事、排泄、入浴等の介助や、生活支援である調理、洗濯、掃除等における方法や手順のハナでのマニュアルを作ります。すべて介護には、その手順、方法で行う理由があります。それを理解したうえで、日々の介助や生活支援を行い、新しい職員にも指導できる様にします。

→マニュアル化は難しいですが、たたき台を作成。リーダー、サブリーダー会議でもんでいきたいと思っています。

・新人職員教育について、夜勤に入るまでに、ここまではクリアーするなど、目処をたてて指導できるようにします。

→フルタイムの職員は、大体3か月目をめどに、先輩職員と一緒に夜勤に入ることが一つの目標になります。今年度は、今まで夜勤をせずに日勤帯のみの嘱託職員として仕事をしていた職員が夜勤にチャレンジするなど、イレギュラーな動きもありました。現在、試用期間3か月目の職員は、夜勤をするレベルに至っておらず、現場の役職とどのように指導していくか悩むケースも出ています。

・2年目以上の職員について、無資格者には実務者研修、有資格者には勤続年数に応じて、認知症介護実践者研修や認知症介護リーダー研修、及び、その他外部研修への参加を支援し、高齢者介護、認知症介護等の基本を理解し、実践ができる職員を育成します。

→無資格者には実務者研修を受講させ、1名介護福祉士に合格しました。また、役職の職員を中心に、認知症介護実践者研修を受講させ、計画作成担当者に就任してもらいました。認知症介護リーダー研修も1名受講し、グループホームの認知症加算算定に貢献しています。今後も流れを途切れさせることなく支援していき、また、学んだことを現場に生かしてもらいたいと考えています。

・高齢者の生活の場であり、ターミナルケアまで行う施設として、医療との連携を行う。終末期の意向確認や入退院連携シートの作成等を通じ、見通しが持てる職員の育成を行います。

→グループホームについていえば、医療との連携は、訪問看護ステーションはれの看護師を中心に、複数いる主治医、薬剤師との連携が進んでいます。一人の主治医に偏っていない分、医師の考え方、捉え方の違いなど、現場からは不満の声もありますが、勉強になる事も多いです。

ただ、訪問看護ステーションは週1回の訪問と電話での相談という契約になっている為、介護職が出来ない医療行為が必要になった時や、急変があった時に困るケースがありました。

また、実際にあったケースですが、元々、家族から看取りの意向が出ており、主治医とも話をしていたのですが、口頭のみで、施設として、終末期の意向確認としての書面は作っていませんでした。その方が急変し、主治医より救急搬送の指示があって搬送。そのまま、状態回復せず、病院で亡くなりました。書面で終末期の意向を明示し、ハナ、家族、医療職で共有しておくことの重要性を痛感しました。

小規模多機能でいえば、週に3~4日看護師がおり、利用者の主治医、薬剤師、訪問看護師との連携は、ハナの看護師、ケアマネージャーを中心に行いました。人によっては、複数の病院に通院しており、全ての把握は困難でしたが、主治医と連携している薬剤師が情報をくれたり、訪問看護師が自宅での様子を伝えてくれるなど、要所要所で、情報を共有しました。また、本格始動していない利用者もありますが、ハナ以外で、特に、医療職も入っている利用者は、介護ノートを作成して、関係する専門職が状況を把握できるようにしました。また、今年度の特徴として、訪問看護ステーションからのリハビリ職の訪問を取り入れるようになり、自宅でリハビリをする機会を持つ利用者が少しずつ増えました。

在宅の利用者は、終末期をどこで過ごしたいのかなど、意向確認が出来ていない利用者が多いため、今後の課題です。

### 3、日課の充実

・利用者の意欲を引き出す行事やレクリエーション、体操、生活リハビリの企画、実践に努め、それができる職員を養成します。

→体操については、グループホーム、小規模多機能ともに、DVDやYouTube、または、職員オリジナルの体操など工夫をし、参加数も増えています。ただ、マンネリ化している部分もあるため、変化を付けることが課題だと感じます。

また、レクリエーションは、イベント的ですが、キムチづくりや餃子作りなど、培った文化を大切に活動を行いました。コロナ以降、数年ぶりでしたが、普段は見られない表情や力をみることができました。利用者に中国語やベトナム語を教えてもらう、古来の遊び方を教えてもらうなども可能な限り行いました。

今後も、日ごろから、その利用者やグループのアセスメントを行い、役割を持ち、喜びを感じられるような活動が出来ればと感じています。

### IV、家族や地域とのつながりを再構築します

1、居室での面会の再開と、外出、外泊の再開、地域での活動参加を目指します。

→はじめに、で記載した通りです。

2、運営推進会議の実施、地域の自治会、民生委員の参加を引き続き呼びかけていきます。

→自治会、民生委員の参加は果たせませんでした。

### V、各部署別の方針

#### 1、小規模多機能型居宅介護ハナの経営方針

・感染症によるクラスターを防ぎ、安全に運営ができるようにします。

→「はじめに」で記載通りです。クラスターを起こしてしまいました。ただ、経営を続け、一部利用者は施設で隔離をして療養、一部利用者は自宅で療養してもらい、訪問で支援をしました。主治医、ハナ看護師、ハナ介護職員、訪問看護師、薬剤師の連携で、重症化による入院がなく終息しました。

・上半期は登録件数22件を目指し、下半期は、常に22件以上の登録を維持し（最大件数24件）、安定的な運営を目指します。

→登録人数は、ほとんどの月が20名で推移し、22名には到りませんでした。

・宿泊について、常に4室は利用者がある状態を維持できるようにします。

→達成しました。

・常勤の看護師の配置をし、医療行為が必要な利用者でも、一部対応が可能なようにします。



→常勤看護師の配置が出来ませんでしたでしたが、週 3~4 日のパートの看護師により相談体制は作ることが出来ました。

・可能な限り、訪問を強化する体制にシフトし、訪問件数 200 件/月以上を目指す。職員体制を整え、訪問体制強化加算(1000 単位)を算定します。

→訪問件数が 200 件を超える月もありますが、基準の人員を満たせず、算定出来ませんでした。

・通い利用者の認知機能、身体機能向上のためのプログラムを作ります。

→プログラム作りまでは出来ていませんが、レクリエーション、壁画づくり、体操のバージョンを増やすことが出来ました。ただ、マンネリ化している為、工夫が必要であると感じます。

・ケアマネジャー3人体制を確立し、ケアマネジメント部門を強化します。

→2人体制で、1人は1件しか担当していないなど偏りを持ったままでした。

## 2、グループホームハナの経営方針

・感染症によるクラスターを防ぎ、利用者の安全と健康を守ります。

→職員の感染は出ましたが、利用者に感染することなく守ることが出来ました。

・利用者にやさしく接し、丁寧な接遇ができる職員を育成します。

→声かけがきつく、他専門職から注意をされることがありました。また、職員にその自覚がなかったのですが、虐待を疑われるようなケースも生まれました。

・利用者の健康維持、ADLの維持に努め、利用者の異常の早期発見から、医療と連携し、前年度に続き、平均在室者を 17 名以上にすることを目指します。

→次の利用者の準備が進まず、1か月近く空床になる事がありましたが、平均在室者数 17 名以上を達成することが出来ました。

・ケアマネジャーの専任性など、介護業務と分離、独立して業務を行える体制の構築など、ケアマネジメント部門の強化に努めます。

→法人とも相談をしましたが、専任については必要ではないと意見の相違があり、今後の課題であると感じます。

・利用者の健康維持、認知機能の維持のため、体操や生活リハビリ、日課を充実させます。

→毎日体操を行い、参加する利用が増えました。また、屋内でのレクリエーションも時折見られます。コロナ禍で外出や様々な活動が制限されたこともあり、この3年余りで、身体機能、認知機能ともに低下。これ以上、低下しないような工夫が必要と感じます。

## その他

### I. 「多文化共生」を考える研修会 2023

2023 年度も様々な地域で活躍されている方にご登壇いただき、コロナ禍のためオンラインで研修会を開催しました。昨年度の反省を生かして申し込み受付人数を増やしました。今年も当日の参加者は申し込みから減少しましたが、夏休み開催という事もあってか参加人数は増加しました。来年度もオンラインでの実施をする場合には、開催日時、受付方法などについて工夫をしていきたいと思えます。

開催日・内容・参加者数一覧

8月16日(水)【総論～「移民国家」日本の現実～】		
13:05～14:30	「『移民社会』日本の現在」 鈴木江理子(国士館大学教授)	87名
14:45～16:15	「日本を支えている移住者たち」 鳥井一平(移住者と連帯する全国ネットワーク共同代表理事)	
8月18日(金)【海外から学ぶ～多文化を包摂する試み～】		
13:00～14:30	「フランス、『移民の記憶』から学ぶ」 森千香子(同志社大学教授)	79名
14:45～16:15	「スペイン、バルセロナのインターカルチュラル・シティづくり」 上野貴彦(都留文科大学専任講師)	
8月22日(火)【教育～外国ルーツの子どもを支えるために～】		
13:00～14:30	「外国につながる子どもの生活～『子どもの貧困調査』より～」 酒井滋子(大阪公立大学客員研究員)	96名
14:45～16:15	「横浜市の外国籍・外国につながる児童生徒の現状と支援について」 横溝亮(横浜市教育委員会事務局学校教育企画部 小中学校企画課指導主事)	
8月25日(金)【当事者の力～多様な背景を持つ人の活躍～】		
13:00～14:30	「『WHOLE』である『HALF』」 川添ビイラル(映画監督)	59名
14:45～16:15	「ライフヒストリー～COLORS 結成～現状と課題、展望」 宮城ユキミ(COLORS 代表)	

## II. 調査研究事業

2023年度、笹川平和財団から委託を受け実施している「新人流時代の共生社会モデル構築事業」の一環として前年度実施した「行政・国際交流協会による『多文化共生』地域サービスに係る実態調査」事業を受け、「『多文化共生』施策を高めるための遂行組織と外国ルーツ市民当事者の『響き合う』場の醸成プロジェクト」を進めました。

兵庫県・神戸市における「多文化共生」事業の認知や共有の施策推進者と施策対象者（のなかの外国ルーツ市民）の非対称性の解消に向けて、一つ目は、教育、芸術、法曹、学術、エンターテインメントという分野で先駆的に活躍する外国ルーツ当事者のインタビューと記事化、また作品映画の上映会、当事者に向けられるステレオタイプ理解を考えるシンポジウムの開催という形でのフロントランナーの人々の活動の発信でした。

もう一つは、年度末に兵庫県・神戸市のなかで施策にかかわる人たちと2023年度事業に協力してもらった人々を中心に立場を超えて自分の言葉で「共生」社会を考えるフォーラムを立教大学の金迅野氏やとよなか国際交流協会の山野上隆文氏、山根絵美氏、三木幸美氏の協力を得て実施し、集めた声を提言としてまとめました。来年度は、成果を踏まえ「～共生社会のためのボーダーをこえる人づくり～」をテーマに外国ルーツ・マイノリティ青年とマジョリティ青年の育成事業に取り組む予定です。

そのほかにも、韓国における高等教育進学と青年支援調査のコーディネーターや多くの大学、研究者からの調査依頼やフィールドワーク、研究協力依頼を受け、内容を精査して少数者の生きづらさを解消で

きるような依頼には可能な限り協力しました。

また法人職員や理事長金宣吉が大学や各種機関からの出講依頼を受け可能な限り出講しました。

### Ⅲ. 第三国定住ミャンマー難民支援事業（第9陣）

2019年3月に神戸に来られた難民の方たちは、来神して5年目となり、その方たちだけを対象とした支援プログラムは全て終了となりました。今後は、必要に応じてKFCの各事業での受け入れとなります。

### Ⅳ. K O B E ランタン縁日 2023

○実施日：10月13日(金)、14日(土)16:30-20:00

\*大正筋商店街のランタン点灯は10月6日(金)～10月14日(土)

○会場：ふたば学舎、ふたば国際プラザ、大正筋商店街(KICC、WACCA、コミュニティハウスを含む)、新長田大橋地下道、神戸生活創造センター

○来場者数：2,100名(ふたば学舎の親子縁日の来場者数)

外国人住民、子どもたちや地域の住民たちが手掛けたおよそ1000個のオリジナルランタンを、新長田の町中に飾りました。ふたば学舎の親子縁日では、スーパーボールすくいや割りばし鉄砲、世界の遊び、千本引きなど、ふたば学舎のノウハウやネットワークを活かして、多くの協力を得て子どもたちが楽しめるゲームが多数用意しました。ステージ企画では、チンドンの演奏やマジック、さらにはモンゴル語の母語教室の子どもたちによる演奏なども行いました。KICCでは、他の団体による多文化イベントが企画され、会場マップとスタンプラリーが用意し、来場を促進しました。

今年度も飲食屋台を取り組み、地域の店舗や団体、個人の協力を得て、韓国、ベトナム、モンゴル、ブラジル、ウクライナ、インドなど多数の国や地域の料理や日本のわたがしの屋台などをふたば学舎前とKICC前で展開しました。KICC入口前では、ウクライナのピロシキの販売も行われ、ウクライナ避難民支援で通訳を務めている方々の協力を得て、17名の避難民がピロシキづくりや販売に参加しました。

また、今回も関西国際大学、神戸市外国語大学、神戸大学、神戸学院大学、日本経済大学、流通科学大学の学生や社会人計約60名がボランティアとして手伝いました。

年々、規模を拡大してきたランタン縁日には、神戸国際コミュニティセンター(KICC)、大正筋協力店舗など多くの賛同者が増えています。

今後も、引き続き長田区や商店街振興の所轄である神戸市都市局と連携し、実行委員会形式で継続して実施する予定です。

### Ⅴ. 第二創業事業「ばいゆー 地域をつなぐ共生社会へのWebサイト」(2021年10月開設)

2023年度も、引き続き生活に役立つ情報や相互理解、協働に関する記事を多言語で投稿し、執筆を進めてきました。具体的には、KFCやふたば国際プラザで展開している事業や生活ガイダンス、ランタン縁日、ウクライナ避難民支援活動の動向に関する情報を、役立つ記事として掲載することに力を注いでいます。また、FRONT RUNNER シリーズをばいゆーの相互理解の枠内に投稿することによって、定期的に記事更新もでき、閲覧回数も伸びました。これからも、既存事業を補完しながら支援や相互理解、協働の輪を広げていくことを目指しています。

<2023年度投稿記事数>

役立ち情報：36 相互理解：36 協働：14

### Ⅵ. ウクライナ避難民支援事業

日本での避難生活が長期化し、教育や就労など多様な課題が生じている中、避難生活も2年目に突入り今後の生活を考えなければならない時期にきています。11月に行ったアンケートでは中長期的に日本で生活をしたいと考えている方が6割を超えました。これまでは避難者として生活を送っていた方々も、

今後は定住者として自立した生活を目指していかなければなりません。若い世代はしっかりと日本語を習得できており、日本企業への就職や進学も比較的問題はなさそうですが、高齢世代は健康不安を抱えている方も多く、就労の意思を持っていても日本語力が壁となり自身の希望する職につけていないのが現状です。またメンタル面に関しては生活が安定していることとは切り離してケアしていく必要があり、今後の課題となっています。

2023年12月、政府は紛争地から逃れてきた人たちを「補完的保護対象者」の呼称で認定し「準難民」として受け入れる新たな制度が創設されました。「補完的保護対象者」と認定されれば、「定住者」の資格が与えられ、さらには「補完的保護対象者定住支援プログラム」として日本語教育や生活ガイダンス・生活支援金を受けることができます。KFCでは申請の支援も行っており、既に30名以上の方が申請を行い、認定を待っています。

## 支援内容

### 1. 委託事業

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数	世帯	人数
支援世帯	44	79	44	79	46	81	45	80	45	79	44	78	44	78	44	78	44	78	44	78	44	79	44	78
日本財団	39	70	41	72	41	72	42	72	42	75	42	75	42	75	42	75	42	75	42	75	42	75	42	75
HIA支援金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
就労者数	-	32	-	32	-	34	-	36	-	37	-	38	-	38	-	41	-	41	-	41	-	41	-	41
住宅更新	10	-	16	-	23	-	24	-	26	-	26	-	27	-	29	-	30	-	31	-	32	-	33	-

相談内容別件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
在留関係	3	1	4	0	6	4	0	0	0	7	4	4
出入国関係	3	0	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0
通訳・翻訳	8	5	0	1	1	0	0	0	0	2	9	1
日本語学習	5	2	2	2	1	5	0	0	0	0	1	1
教育	8	10	7	5	6	5	0	2	0	2	2	1
医療	26	17	16	14	12	28	11	8	10	10	12	4
社会保険・年金等	7	12	8	12	10	1	0	2	1	4	1	1
雇用・労働	14	9	9	10	3	4	1	0	1	2	0	1
住宅	12	14	10	7	5	5	3	2	1	1	2	2
その他	17	11	12	19	16	9	2	4	5	7	10	6
件数	103	81	71	71	60	61	18	18	18	35	41	21

- ・在留関係 在留資格の更新・補完的保護対象者認定申請
- ・出入国関係 出国・一時帰国に関する相談
- ・通訳・翻訳 手紙や公的文書の翻訳
- ・教育 公立校園・インターナショナルスクール・日本語学校 入学手続き等支援
- ・医療 医療機関の受診相談
- ・社会保険・年金等 区役所での手続き支援
- ・雇用・労働 職場見学・面談調整等
- ・住宅 公営住宅入居手続き・更新手続き支援
- ・その他 銀行口座等開設支援・支援金に関する相談等
- ・健康診断 神戸市国保特定健康診査 6月24日：6名 7月13日：1名  
7月15日：1名 7月20日：1名 2月27日：5名  
神戸海星病院 7月22日：2名 9月28日：3名
- ・歯科検診 神戸常盤大学歯科診療所 7月25日：2名 7月28日：2名  
8月22日：2名 9月12日：2名 9月22日：4名
- ・日本料理教室 8月11日：16名 12月2日：15名
- ・バスツアー 日本文化に触れる～奈良・東大寺～：34名
- ・JA神戸六甲 食料料品の提供 8月1回 2月1回

・ソフトバンク社 スマートフォン提供

## 2. 自主事業

自主事業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
絵画教室				18								
書道教室					7							
英語教室	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1
文化交流会				10	15	15	16	13	41	4	7	11
相互理解講座								15				

- ・絵画教室 7月1日：9名 7月29日：9名
- ・書道教室 8月8日：7名
- ・英語教室 週1回 1時間 対象者：2名
- ・文化交流会 7月から毎月1回開催。講師の得意分野を活かした講座
- ・相互理解講座 ウクライナ語の歴史と挨拶：11月25日 15名
- ・セラピードッグ 8月3日：17名
- ・ふたば国際プラザの料理教室に講師として参加 1名
- ・ランタン縁日 屋台出店 10月13日・14日
- ・常盤女子高校ボランティア部 学校祭での出店
- ・ええとこながた ウクライナブースでの参加
- ・NTT 西日本 お菓子の詰め合わせ配布
- ・中央卸売市場本場 弁当作り
- ・ウクライナ文化交流会

	開催日	講座名	参加者
第1回	7月22日	ウクライナ史入門	10
第2回	8月26日	ウクライナの花輪作り	15
第3回	9月23日	コーヒー豆雑貨作り	15
第4回	11月4日	ウクライナの家料理	16
第5回	12月9日	クリスマスリース作り	13
特別回	12月23日	クリスマスパーティー	28
第6回	1月27日	ウクライナの歌を歌おう	4
第7回	2月23日	モタンカ人形づくり	7
第8回	3月23日	ビーツで本格ポルシチづくり	11

## VII. 定住外国人子ども奨学金実行委員会の事務局運営

今年度も引き続き事務局を引き受け、以下の活動を行いました。

今年度のコンサートは、ピアノとバイオリンに加えて、ウクライナ避難民のバレエダンサーとその教え子の園児たちが参加してくれるという新機軸の豪華なコンサートになり、大勢の方にご参加いただきました。

奨学生の採用人数が3名から4名となり、コンサート以外のイベントの売り上げなどがなく、寄付も減少傾向のため、大幅な赤字になりました。来年度はイベントに出店するほか、新たな取り組みも検討していく必要があると考えています。

4月2日 面接11名 決定4名（ネパール2名、インドネシア1名、中国1名）

10月29日 チャリティコンサート開催 参加約300名

2024年3月1日～3月29日 第17期奨学生募集 14名の応募あり。

それぞれ、年3回面談、作文指導を実施。

ニュースレター発行 年3回発行